

1 白けも耳娘との同棲（仮） 台本

2 (■トラック 1)

4 ■効果音:主人公の足音(土の道)

5 ■編集さんへ:下から聞こえてくるように加工

6 ▼位置:前【遠く】

8 ≪ハク≫

9 も、もし。その見るからに面倒見が良さそうで、

10 空腹で倒れてるか弱き美少女ケモ耳っ娘を見過ごす事のできなさそうな人よ……。

12 お腹が減ってしまい行く当てもない、ハクを助けて……。

14 ■効果音:主人公が立ち去る音

15 ■効果音:主人公の足を掴む音

17 おい、ちょっと待て。主(ぬし)それでも人間か？

18 血の通った人間なのか？ こんな、今にも死にそうな儂げな美少女が助けを求めている。
19 これを救わない手はないぞ。

21 ■主人公:いやだって、面倒そうなんだもん。

23 ……む、面倒くさそうって顔を今すぐやめろ。泣いちゃうぞ。およよ。

25 ■主人公:嘘くさいなあ。

27 ほら、いいから手、取って。助けて。ご飯食べさせて。寝床も用意して。

29 ■主人公:注文が多いなあ

31 ……ため息つかない。助けてくれたらちゃんと恩返しくらいしてやるぞ。

32 お買い得な人助けならぬ、ケモ耳助けだと思う。

34 はーやーく。

36 ■主人公：仕方ないなあ。
37 ■効果音：手を取って立ち上がらせる音
38 ▼位置：前【中距離】
39
40 おっとお。
41
42 ■効果音：着地する音
43
44 うむ、感謝するぞ。
45 そいじゃハクをお家まで運んでくれ。
46 見ての通りハクはお腹ぺこぺこでもう一歩もあるけない。
47 決して、歩くのが面倒とかそんなことはないので、あしからず。
48
49 はい、それじゃ、後ろ向いて。
50
51 ■効果音：？
52
53 いいからいいから。
54
55 ■効果音：しぶしぶ後ろを向く音
56 ▼位置：後ろ【中距離】
57
58 というわけで失礼。
59
60 ■効果音：主人公の背中におぶさる音
61 ■効果音：現在の位置から・左耳【近距離】に移動しながら
62
63 ぐっぐっしょ。
64
65 ▼位置：後ろ【近距離】首を左右に振りながら
66
67 ……わ、わり、暴れるなあ。落ちる落ちる。
68
69 ■効果音：ゆさぶる音
70 ■効果音：後ろ・左耳【近距離】
71

72 ふう、危ない危ない。気を付けてくれ。

73 ケモ耳美少女の顔に、傷がついたらどう責任を取るつもりだ？ お？

74 ■主人公：急に飛びついておいてなんたる言い草だ。

75

76 ……む、文句ばかりだな。

77 苦情は最寄りのポストまで投函してくれ。後日担当から連絡が入るはず、だ。

78

79 ……さ、そんなことはさておき、主の家に行くぞ。

80 いけいけごーごー、だ。

81

82 ■主人公：仕方ないな

83 ■効果音：主人公の足音10秒くらい流してフェードアウト

84 ■編集さんへ：場面転換

85 ■効果音：食事音（ハク）

86 ▼位置：前【中距離】

87

88 ≪ハク≫

89 ふうふう、ごちさそうになった。主（ぬし）、中々の腕前、腕をあげたな。

90

91 ■効果音：初対面でしょ

92

93 ……初対面とか無下なこと言いっこなしだ。ノリというものがこの世にはある。

94

95 ■主人公：食べたたら帰るんだよ

96

97 ……結論を出すのが早いぞ。ご飯を食べてほいさよならなんて、そんな不義理なことしない。
98 しかと恩返しをしてやろう。こー見えてハクは義理堅いケモ耳娘だ。

99 主（ぬし）が嫌がっても強制的にしてやるからな。

100

101 ■主人公：はた迷惑すぎん？

102

103 ハクは尽くす女だ。ご奉仕とか得意。たぶんきつとおそろくめいびー。
104 やったことないから約束はできないけどな。えっへん。

105

106 それで、ああ、うん、そーいえば主の名前を聴いてなかった気がするな。
107 わっっちゃーねーむ？

108
109 ■主人公：名前を言う
110 ふむ、なるほど、なるほど。
111 ではこれからお主のことはご主人と呼ぶことにするぞ。
112

113 ■主人公：なんで聞いたし
114

115 人間の名前は覚えにくい、ハクみたいに単純な名前じゃないと覚えられない。
116 ハクの名前はハク、真っ白なモフモフが特徴のケモ耳美少女のハクだ。よしなに。
117

118 ……ご主人は独り身か？ 部屋を見るかぎり一人暮らしのようだが。
119 うーん、なるほど。ぼっちというやつか？ 悲しみて涙がちよちょ切れるな。
120

121 ■主人公……。
122

123 ……ふむ。なんだかご主人からただならぬ殺気が……。
124 冗談はこのくらいにしとこう。ハク、危機察知能力二重丸なので。
125

126 さて話がそれってしまったな。
127

128 ■主人公：誰のせいだ
129

130 む……くれーむはお断りだぞ。
131

132 ご主人はか弱きけも耳美少女ことハクを助けてくれた。
133 義理堅いハクはご主人に恩返しをしてやる。具体的にいうとご主人のお世話をしてやるぞ。
134

135 独りだと寂しいと思ってな。ハクは氣が使えるケモ耳美少女だ。
136 ハクに任せておけば寂しさなんて感じる暇もなくなるぞ。
137

138 ■主人公：怪しい
139

140 その前にご主人、茶などはあるか？ 熱々の茶がほしいぞ。
141 ところで一杯のお茶を所望する。
142

143 ■主人公：図々しいやつちゃな

144
145 ……これから一緒に暮らすのだ、遠慮をしてはいらぬ軋轢を生むかもしれんからな。
146 こーしてハクが図々しことを言えば、ご主人も接しやすかろう。
147 決して、自分で動くのが面倒だったわけではないからな。勘違いせぬように。
148

149 ■主人公…一緒に住む？
150

151 ……うむ、その通り。先も言っただろう。宿もくれと。
152 今日からご主人の家に厄介になることに決めたのだ。
153 ご主人もこんな幼気な白髪（はくはつ）美少女を外に放り出すような真似はしないだろう？
154
155 行く当ても帰るあてもない獣人だが、ご主人に恩返しをしたい気持ちだけはホントにある。
156 住まわせてくれたぶん、ご奉仕とやらで返させてもらうかから期待しててよいぞ。
157

158 ■主人公…まあ、いいけどさ。どうせ一人だし。
159

160 ……ふむ、ご主人の快諾得たところで、さ、早く茶をくれ。
161 喉がカラカラになりそうだ。
162

163 ■主人公…まったく
164

■効果音…主人公の足音フェードアウト

165 (■トラック 2)

166 ■編集さんへ：遠くから聞こえるように加工をお願いします。

167 ■効果音：ハクが靴を履く音

168 ▼位置：前【遠距離】

169 ……これでよしだ。

170 ……これでよしだ。

171 ……これでよしだ。

172 ……これでよしだ。

173 ■効果音：主人公が近づいてくる足音

174 ▼位置：前【中距離】

175 ……これでよしだ。

176 ……これでよしだ。

177 ……これでよしだ。

178 ……これでよしだ。

179 ■主人公：なんか癪だなあ

180 ……これでよしだ。

181 ……これでよしだ。

182 ■主人公：気が向いたらね

183 ……これでよしだ。

184 ……これでよしだ。

185 ■主人公：そうかも

186 ……これでよしだ。

187 ……これでよしだ。

188 ……これでよしだ。

189 ……これでよしだ。

201 今日はご主人にも、あの心地よさを知ってもらおうと思つてな。
202 ふむ、尽くすいい女だなハクは。
203

204 ■主人公：自分で言わないの
205

206 さ、ご主人行くぞ。ほら手を取れ。
207

208 ■効果音：手を繋ぐ音
209

210 へへ、ご主人と手を繋ぐのは気持ちいいな。
211 ハクに丁度よい体温をしてる。
212

213 ■効果音：木製の扉を開ける音
214

215 ■効果音：足音
216

217 ■BS：外の環境音 川のせせらぎや鳥の鳴き声
218

▼位置：マイク左側に立ち正面を向いて【中距離】

219 うむ、寒すぎず暑すぎず丁度いい気温だな。
220 これなら今日はいつもよりゆったりとできるはず。
221

222 ■効果音：しばらく足音（芝生）×2
223

224 着いたぞ。ここがハクの特等席だ。
225

226 ■効果音：ハクが振り向く音
227

▼位置：左耳【中距離】

228
229 目の前に川が見える、大樹の根本。木漏れ日がいい塩梅だ。

230 ここでごろんと寝っ転がるとな、ちょうどお腹辺りに、お日様の光があたるのだ。
231 天然布団みたいで気持ちいいぞ。ばっちぐーな寝心地だ。
232

233 今日はこちらでハクとまったりしよう。
234

235 最近の「主人、根を詰め過ぎだ。身体を大切にしていらないと、
236 ハクを養つて——間違えた。

237 身体を大切にしちゃうとハク悲しんじゃうぞ。
 238 うむ、こつちが本音だ。さっきのは間違い。謹んで訂正する。
 239
 240 ■主人公：ジト目
 241
 242 ……ご主人のジト目が目に刺さる。痛い痛い。
 243 都合の悪い事は忘れて今日はまったりゆったりぐっすりするぞ。
 244
 245 ▼位置：マイク左側に立ち正面を向いて【中距離】
 246
 247 よこっらせっと。
 248
 249 ■効果音：ハクが芝生に寝転がる音
 250 ▼位置：前【遠く】
 251
 252 ご主人も、一緒に寝るぞ。
 253 ハクの尻尾に頭乗せていいから、こつちに来るがよい。
 254
 255 ■効果音：主人公が寝っ転がる音
 256 ■効果音：尻尾枕が耳辺りあたる音
 257 ▼位置：左耳【近く】
 258
 259 お？ちよつとむずむずするな。くすつぐたいぞ。へへ。
 260
 261 ■効果音：少し尻尾枕を堪能する音※時折尻尾で片耳を塞ぐ音
 262
 263 おお、ご主人がハクの尻尾を堪能してる。珍しい光景だ。
 264
 265 なあなあご主人。
 266
 267 ■効果音：主人公が寝返りを打つ音
 268 ▼演技指示：以降、囁き（有声音）
 269 ▼位置：前【近距離】
 270
 271 どうだハクの尻尾枕？もふもふで気持ちいいか？
 272

273 ■主人公：気持ちいい
274

275 ふむ、それは良かった。ハクはこれでも乙女だからな、尻尾のお手入れも欠かしていないぞ。
276 面倒なことは嫌いだが、ご主人が喜んでくれるなら、
277 少しばかりの努力はしてもいいと思う、健気なハクさんであった。
278

279 ■効果音：尻尾枕を堪能する音
280

281 (自然な吐息・10秒ほど)
282

283 ご主人の家に厄介になってもう一月（ひとつき）くらいになるか？
284

285 ■主人公：そうだね
286

287 早いものだな。どうだ？ ハクと一緒に暮らしも悪くないだろう？
288

289 ■主人公：賑やかではあるね
290

291 ……ふむ。賑やかなのは良い事だ。ご主人の家は一人で住むにしては少し広すぎる。
292 ハクのようなうら若き乙女がいて、丁度良い。
293

294 ■主人公：うら若き？
295

296 ……うら若きだ。なぜ繰り返す？ 失礼だぞ。
297

298 ……まあ、拾ってくれた恩返しのご奉仕については、少し難航してるというか、
299 なんならご主人にお世話になりっぱなしな気もするな。
300

301 ……細かいことは考えないようにするのが、ハクのぼりしー。
302

303 うう、いつもすまねえです。
304

305 ■主人公：ホントだよ
306

307 ご飯も上手く作れず、掃除や洗濯も苦手。
308 お茶を入れるのも、ご主人にまかせっきりだけ……。

309 ハクはご主人の身体を本当に心配している。

310

311 いつも頑張ってる事を知ってるからな。

312 だからハクにできる事は少ないけど、こーして一緒にまったりくらいはできる。

313 ご主人と一緒に休むことはできる。

314

315 疲れた時、辛い時、苦しい時は遠慮せずにハクを頼るといい。

316

317 その時は今日みたいに一緒にぼけーつとしてやる。

318 そうするだけでも、休まるはずだ。

319

320 これはハクの実体験。お墨付き。

321

322 (自然な吐息・10秒ほど)

323

324 ご主人、くまが凄いな。やはり昨日も夜更かししてたな。

325 まったく、ちゃんと休むようにいつも言っているのに、困ったご主人だ。

326

327 少し寝るといい。

328

329 ■主人公：寝る？

330

331 ……そう、お昼寝だ。根を詰めてもいい事はないぞ。

332 せつかくこんな気持ちいい天気、寝ないとバチが当たる。

333

334 ハクも一緒にいる。だから安心して寝て大丈夫だ。

335

336 もし周りの誰もがご主人に無関心だったとしても、

337 ハクだけはご主人をちゃんと見てる。

338

339 ハクだけはご主人の味方だ。だから、今は休むがいい。

340

341 ■主人公：わかった

342

343 うむ、そしたら身体の力を抜いて、

344 自然の音とハクの息の音だけを聴いて、目を閉じる。

345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380

348

349

350
351

352
353
354

355 355

357
358
359

360

361

362
363
364

365

367
368

369
370
371

372
373

374
375

376
377

378
379

380

381 良く寝てるな、うむ。いい仕事をした。

382

383 ……ふわぁ〜。ん、ハクも眠くなってきた。

384 それじゃハクもいっちょ寝ることにするか。

385

386 んしょつと。

387

388 ■効果音:主人公に抱き付く音

389 ▼位置:前【近距離】マイクの胸あたり。

390

391 ん、ご主人の抱き心地抜群だ。

392 これは良く寝れそう。いつかご主人の抱き枕を作るのもありだな。へへ。

393

394 そいじゃ、おやすみなさい。ご主人。

395

396 (寝息・10秒×3パターンください) ※ループ用

397 (■トラック 3)

398

399 ■ B G : 夕方っぽい環境音

400 ■ 効果音 : ハクをおぶって歩く音 15 秒くらい流してその後ループ

401 ▼演技指示 : 寝ぼけています。

402 ■ 効果音 : 後ろ・右耳【近距離】

403

404 ≪ハク≫

405 すう、すう……ん……むにや……あれ、ご主人？

406 ふわぁ……ん。もしかして、ハク、寝すぎたか？

407

408 ふむ……もう夕方か……。

409 ご主人の傍が心地よくて爆睡してしまったというわけか。なるほど。

410

411 ■ 主人公 : 自分で歩く？

412

413 んにや……このままで。ご主人におぶってもらえるの好きだ。

414 自分で歩くなぞ、いつでもできるからな。

415

416 だらける時はだらける。これが大事。ご主人も見習うべしだ。

417

418 (吐息・10 秒)

419

420 ん……。にしてもご主人の背中はぬくいな……。

421 湯たんぽみたいで温かい……。実家のような安心感。

422

423 ご主人はハクの実家だったのか。衝撃の事実。

424

425 ■ 主人公 : バカなこと言つて

426

427 ……む、バカな事とはなんだ。実家は大事だぞ。

428 ハクに実家と呼べるところはないからな、獣人はなかなか家を持つことが難しいのだ。

429

430 なので、ご主人の背中をハクの家とする。異論はみとめぬぞ。

431

432 ■ 主人公 : 勝手にどうぞ

433 ……ふむ、勝手にさせてもらおう。へへ。

434

435 (吐息・10秒)

436

437 ……こーしておぶさつてると、初めて会った時を思い出すな。

438 空腹で倒れてるハクをご主人が優しく助けてくれた。

439

440 ……あれはとても嬉しかったぞ。人の優しさに触れたのはあの時が初めてだ。

441

442 ご主人は優しくていい人間だ。誇っていいぞ。

443

444 (吐息・10秒)

445

446 ……ふわぁ……おぶさつてるとまた眠くなってきたぞ。

447 揺れがちようどいい睡眠を誘ってくる。ふわぁ……。

448

449 なぁ、ご主人……家に着くまで、ご主人の背中で眠ってもいいか？

450

451 ■主人公:いいよ

452

453 ……ふむ、ありがとうだ。

454

455 (吐息・10秒)

456

457 んっ、ぎゅっ……。

458

459 ■効果音:抱き付く音

460

461 ご主人の背中、大きくて安心する。

462 あの頃と何も変わらない優しい温度。

463

464 ……ハクの好きな……背中。大好きなご主人……。

465

466 ……。

467

468 ……。

469	
470	(寝息・10秒×3パターンください)
471	
472	■編集さんへ…寝息をループさせて5分くらい流してフェードアウト

473 (■トラック 4)

474
475 ■効果音:木製の扉を開ける音

476 ▼位置:前【遠く】

477
478 ご主人あがったぞ。うむ、風呂上りは身体ほかばかするな。
479 こういうときはミルクに限る。ご主人、ミルクを所望するぞ。
480

481 ■主人公:自分で取りなさい

482
483 ……つれない返事だ。仕方ないたまに自分で動くとするか。
484 いつもご主人任せだとぶくぶくのたぬきさんになるからな。
485

486 ■効果音:遠くに行く足音

487 ■効果音:遠くでミルクをコップに注ぐ音×2

488 ■効果音:近づいてくる足音

489 ▼位置:前【中距離】

490
491 ……ほい。ご主人の分も持ってきてやったぞ。

492 これ以上大きくなれると身長差がえらいことになりそうだが、
493 お風呂上りのミルクは格別だ。ご主人にもお裾分けしてやろう。感謝するといい。
494

495 ■効果音:コップを受け取る音

496 ■主人公:ありがとう。

497
498 ……ふむ。どういたしましてだ。
499

500 ▼演技指示:次の台詞 ミルクを飲む

501
502 んく、んく、んく。……ふはぁ〜。

503
504 染み渡るな。ご主人はどうだ、ミルクうまいか？
505

506 ■主人公:うまい

507
508 そうか、それはよかった。同じ物を飲み共感するというのはいいいものだ。

509 ▼演技指示:次の台詞 ミルクを飲む

510

511 んく、んく、んく。

512 ふはぁ〜。うまうま。

513

514 ご主人はこの後の予定はあるか？ もちろん仕事以外でだ。

515 もしないならハクがご奉仕をしてやってもいいぞ？

516

517 うむ、今日一日最後まで、ご主人をねぎらってやろうではないか。

518 決してお昼寝をして眼が冴えて眠れなくて、暇だななんて思っておらんぞ。

519 ホントにホントだ。

520

521 というか、このままご主人を放っておくとまた根を詰める気がしてな。

522 飼い主を心配する健気なケモ耳少女が気を使っているのだ。

523

524 ■主人公:自分で言うなよ

525

526 ……してご主人。何かしてほしいことはあるか？

527 ハクのできる範囲で何でもしてやってもいいぞ。

528

529 ■主人公:ご飯作って

530

531 ……ご飯は作れぬ。

532

533 ■主人公:お風呂掃除して

534

535 ……掃除もできぬぞ。

536

537 ■主人公:…………。

538

539 ……………。

540

541 ■効果音:肩もみをして

542

543 ……肩揉みは疲れるから却下だ。

544

545 ■効果音:ならなにができるんだよ！

546

547 ……ふむ。何ができると聞かれると困るな。

548 ……ん〜、あっ耳かきとかどうだ？

549 どこかで人間は耳かきが好きだと聞いたことがある。

550

551 ご主人もたまにやっておるだろ。今日はハクがやってやろう。
552 はじめてだからうまくできるかは心配だが、頑張ってみるぞ。
553

554 ■主人公:不安だけどお願いする。
555

556 あいわかった。ハクに任せとけ。

557 よしそうと決まれば、耳かきする道具を持って来るぞ、

558 ご主人はソファァで待っててくれ。
559

560 ■効果音:ハクが離れる音

561 ■効果音:主人公がソファァに行く足音

562 ■効果音:主人公がソファァに座る音

563 ■編集さんへ:少し間

564 ■効果音:ハクが近づいてくる足音
565

566 待たせたな。
567

568 よいしょっと。
569

570 ■効果音:ソファァに座る音

571 ▼位置:右耳【中距離】
572

573 そしたらご主人、ハクの膝に頭をのせてくれ。膝枕というものだ。
574

575 いつもはご主人にしてもらってるからな、たまにはハクがしてやろう。
576 乙女の太ももは柔くて天国のような気持ちよさだ。たぶん。
577

578 ■効果音:膝枕する音
579

580 おお、意外と素直に膝枕されるのだな。ハクちよつとびっくりだ。

581 甘えん坊なご主人か？　へへ、それもよいな。うむうむ。

582

583 ん、素直なご主人は嫌いじゃないからな、しっかりハクもやってやろう。
584 耳かき棒、入れてくぞ。

585

586 ■効果音：耳かき音（外側）開始

587 ▼演技指示：耳かき中は囁き（有声音）

588

589 まず外側からだ。くすぐるようにこちょこちょしてやる。
590 もし痛かったら言ってくれ。くすぐったい場合は我慢するのだ。

591

592 （吐息・10秒ほど）

593

594 ……どう、だ？　うまく出来てるか？

595 人の耳はハクと違うからな、耳かきも勝手が違うのだ。

596

597 ■主人公：大丈夫　気持ちいいよ

598

599 そうか、なら続けてやっていくぞ。

600

601 （吐息・10秒ほど）

602

603 かり…かり、かり…かり…かり。

604

605 かりかり…かりかり、かり、かり…。

606

607 ご主人の耳…よい形をしているな。ハク好みのいい耳だ。

608

609 ■主人公：耳に好みなんてあるのか？

610

611 ……ん？　言われれば、耳の形をまじまじ見たのは初めてだ。
612 ふむ、でもなご主人。ご主人の耳の形、ハクは好きだぞ。

613

614 それでいいと思わんか？

615

616 ■主人公：そうだね

616

617 ふむ、よい返事だ。

618
619 (吐息・10秒ほど)

620
621 かり…かり、かりかり…かり…かり。
622 かりかり…かりかり…かり…かり…かり…。

623
624 静かだな。ご主人の家の周りは何もない。
625 町へ出るのも一苦労なほどだ。

626
627 便利なものはなにもないが、自然がたくさんある。
628 栄えた街にはない、綺麗なものがたくさんある。

629
630 ハクはそれがとても心地よい。
631 ご主人と一緒にいることがとてもよいのだ。

632
633 (吐息・10秒ほど)

634
635 耳の外側、円をなぞるようにかり、かり。かり、かり。
636 ふむ、なんだかクセになるな。

637
638 ハクの耳はご覧の通り、けも耳だからな。
639 耳かきも人間とは異なる。

640
641 ハクの耳と違う感触が面白い。

642
643 ご主人も気持ちよさそうだし、ハクも楽しい。
644 ウィンウィンというやつだ。

645
646 (吐息・15秒ほど)

647
648 ……ん、外側はおしまいだ。次は奥側を、やってくぞ。
649 ぞわぞわするかもだからな、気合を入れる事だ。

650
651 っくぞ。
652

653 ■効果音：耳かき音（奥側）開始

654
655 （吐息・10秒ほど）

656
657 奥の方は少し間違えると、ご主人に怪我をさせてしまうから、
658 このハクをもつてしても、慎重にならざるをえないな。

659
660 あまり伝わってないかもしれないが、ハクはご主人が傷つくことをよしとはしていないのだ。
661 恩がある、だけじゃないぞ。それでもハクはご主人が好きだからな。
662 好きな人間を——家族のような人を傷つけるなぞ、いくら自由奔放なハクでもない。

663
664 これでも主（あるじ）思いな、美少女けも耳娘だからな。へへ。

665
666 （吐息・10秒ほど）

667
668 ご主人、気持ちよさそうな顔をしてるな。
669 耳かき、好きなのか？

670
671 ■主人公：わりと

672
673 ……そうか。

674
675 （吐息・10秒ほど）

676
677 今度、耳かきをしてほしい時がきたら、ハクに言うといい。
678 ハクがぐでーっとしてない限りはしてやろう。

679
680 問題はハクの趣味がぐでることなのだが、そこは時の運というやつだ。
681 ぐでるのはいいぞ。何も考えずに身体を軟体動物のようによーんとさせるのだ。
682 今度ご主人もやってみるといい。

683
684 （吐息・10秒ほど）

685
686 まあご主人たつての願いであれば、ぐでるのを少し中断させることもやぶさかではない。
687 その代わり、ハクも耳かきして欲しい時は、ご主人にお願いするからな。
688

689 ■効果音:それくらいなら
690

691 約束だ。
692

693 たまにご主人も甘えてもいいぞ。
694

695 ハクは甘えることに関してはご主人より数百倍秀でているからな。
696 数少ない自慢だ。

697 甘えて、甘やかされて、甘えられて、甘えさせる。
698

699 とてもいい関係だ。へへ。
700

701 (吐息・10秒ほど)
702

703 もう外は真っ暗だな。普段ならハクはもう寝る時間。
704

705 良い子なハクは寝るのが早い。
706

707 さつきも言ったが、ご主人とお昼寝をしたからな、いつもより眠たくない。
708

709 それとな、久しぶりに今日一日、ずっとご主人と一緒にだったから、
710 今日が終わるまでご主人と一緒にいたいのだ。

711 と、たまにデレアピールをするハクさんのなのである。
712

713 ……ちゃんと本心。
714

715 ハクはご主人が思うより、ずっとご主人が好きで大切な存在だ。へへ。
716

717 (吐息・15秒ほど)
718

719 ふむ、こつちのお耳はこのくらいにしといてやろう。
720

721 少し物足りないくらいがちょうどいい。
722

723 ……。へっへっへ。
724

725 ■効果音:次の台詞、耳に息を吹く
726

727 …ん、ふうふうふうふう——
728

725 びつくりしたか？ さ。ふらいずというやつだ。
726 どれもう一回やってやろう。
727

728 ふうううううう——
729

730 へっへっへ。気持ち良からう。
731

732 ちなみにハクにはやらなくていいからな。ぞわぞわする。
733

734 ■主人公……。
735

736 ……ぬ、ご主人から復讐の気配する。怖い怖い。
737

738 さて、次は反対のお耳だ。そのままの体制でころーんできるか？
739 ハクが手伝ってやるか？

740 ■主人公…大丈夫
741

742 ……そうか、それなら
743

744 ▼位置…左耳【近距離】に移動しながら
745

746 ころーん
747

748 ……ふむ、上手にできたな。頭を撫でてやろう。
749

750 ■効果音…頭を撫でる音
751

752 ん、照れてるのか？ ご主人は意外と純情なのだな。
753 しかたない頭を撫でるのはやめてやろう。
754

755 代わりに今度、ハクの頭を撫でろ。ご主人に撫でられるのハクは好きだぞ。
756

757 ■主人公…わかった
758

759 ふむ、約束だ。
760

761 それじゃあ、こっちのお耳も耳かきやっていくぞ。
762 さつきと同じく外側から、ゆっくりな。
763

764 ■効果音：耳かき（外側）開始
765

766 （吐息・10秒ほど）
767

768 ……どうだ？ 気持ちいいか？
769

770 ■主人公：うん
771

772 そうか……。ハク、耳かきの才能があるのかもな。
773 耳かき屋さんとかやるべきか？
774

775 ハクの美貌があれば客が途絶えることはないだろう。
776 ハクが稼げば少しはご主人も楽になるか？
777

778 ■主人公：そんなことしなくても大丈夫
779

780 ……ご主人は優しいな。それがハクにだけ向けられていれば、文句の付け所もないのだが、
781 ご主人は誰にでも優しい。ハクだけじゃない、人間にも獣人にも。
782

783 それは美点であり美德ではあるが、その優しさにちゃんと自分を入れているか？
784 誰かに優しくする前に、誰よりも自分に優しくくだぞ。
785

786 そうでないといつかご主人、壊れてしまうかもしれないからな。
787 たまには自分本位になることも大事だ。
788

789 最悪、ご主人はハクとご主人だけに優しくしとけばいいからな。
790 誰にでも優しくする必要はないぞ。誰に優しくするかが重要だ。
791

792 その対象がハクであれば、ハクはとても喜ばしい。
793

794 ちょっと真面目に語り過ぎたかも。へへ。
795 ハクが言いたいのはハクとご主人が幸せになればよいということだ。
796 今日はそれだけ覚えて帰っていくように。

797 ■主人公：もう帰ってる

798

799 ……野暮なツツコミは受け付けておらんぞ。

800

801 (吐息・15秒ほど)

802

803 ……外側、おしまいだ。

804

805 ん？ ご主人、眠いのか？ なんだか顔がとろーんとしておるぞ？

806

807 ■主人公：気持ちいいだけ、まだ眠たくない。

808

809 ……気持ちいいなら良いが、まだ眠たくないとは、大人だ。

810

811 ハクは少し眠くなってきたぞ。

812

813 ■主人公：寝てもいいんだぞ

814

815 ……んにゃ、まだ大丈夫。今日はご主人と一緒に寝るのがゴールと決めたからな。
816 お昼寝してお夜寝もする。そして明日の朝、一緒におはようを言うのだ。

817

818 だから、もうちよつと起きてる。もうちよつとご主人を癒してあげるぞ。

819

820 続きをやっていくな。

821

822 ■効果音：耳かき（奥側）開始

823

824 (吐息・20秒ほど)

825

826 ご主人、明日もハクに付き合ってくれるか？

827

828 今日はほとんど庭先に出たくらいだったからな、

829

明日はもう少し先まで散歩とかどうだ？

830

831 部屋にこもりっぱなしはよくないぞ。ハクのように自然を走り周ってみてはどうだ？

832

■主人公：ハクも部屋でぐーたらしてるだろ

833 ……む。痛い所をつかれた。まさかご主人がハクの生態について知っているとは。
834
835 ふむ、ご主人の言う通りお部屋でぐーたらするのが好きだ。
836 だが、これでもたまには身体を動かしているぞ。
837

838 ホントにたまにだが。ハク、眠るの、好き。疲れるの、嫌い。
839

840 (吐息・10秒ほど)
841

842 たまにお外に出ないと体に良くないのは、人間もけも耳美少女も一緒だ。
843 だから、ハクと一緒にかけをしよう。
844

845 そうすれば二人とも健康的にぐーたらできる。
846 魅力的な提案だと思わないか？
847

848 ■主人公：そうかも
849

850 ……ふむ、なら決まりだ。明日から、二人でお散歩をするぞ。
851 くく、楽しみだ。
852

853 (吐息・15秒ほど)
854

855 いつも夜になると、明日も楽しみだが、今日も終わってほしくないな。
856

857 ずっと、こーしてご主人とぐーたらしたい。
858

859 ハクは甘えん坊でもあるからな、構ってくれないと寂しくて泣いちゃう。およよ。
860

861 ■主人公：嘘だよ
862

862 ……嘘じゃないぞ。ハクは甘えん坊で、寂しがり屋なんだ。
863 ご主人と一緒にでな。
864

865 ■主人公：……。
866

867 寂しがり屋さんが二人集まれば、もう寂しくない。
868 だからハクはご主人のもとにやってきたのだ。

869 (吐息・20秒ほど)

870

871 ふむ、このくらいにしておくか。

872

873 ハクのご奉仕耳かきタイムはこれでおしまい。

874

875 耳かきいっぱいするとな、耳が痛い痛いになるらしい。
876 適度にやるのが丁度いい。

877

878 もし物足りないなら、また今度やってやるからな。

879 今日はこのくらいで我慢、もとい満足しとくべしだ。

880

881 ……ご主人ずっと気持ちよさそうにしてたな。

882 ハクの耳かき、そんなに気にいったか？

883

884 ■主人公：久しぶりにゆつくりできた

885

886 ……そうかそうか。そういわれると苦しゅうないな。

887 あ、そだそだ、忘れてた。

888

889 ん、ふうふうふうふう——。

890

891 へへ、耳吹きをご主人すきだろ？

892 ぞわぞわぶわぶわごにやごにやするの大好きなのだろう？

893

894 もう一回やっただけよう。

895

896 ふふうふうふうふう——、ふうふうふうふうふう——。

897

898 あうあう、呼吸が……

899

900 ▼演技指示：息を吸う

901

902 ……すう~~~~~~~~。

903

904 サービス精神旺盛過ぎた。あやうくハクの命が天に召されるところだった。
危ない危ない。命を大事にだな。うん。

905 さて、耳かきご奉仕タイムをこれにてホントに終わり。
906 次回の公演をご期待ください。まる。

907
908 ……寝る準備するぞ。歯磨きして、おトイレをすまして、
909 ハクのいい所を百個くらい考えておくように。

910
911 お疲れさまだぞ、ご主人。へへ。
912

913 ■BG:環境音 フェードアウト

914 (■トラック 5)
 915
 916 ■効果音：扉を開ける音
 917 ▼位置：前【遠距離】
 918
 919 ≪ハク≫
 920 お、ご主人待っていたぞ。こっち来るといい。
 921 ふむベッドの上だ。
 922
 923 ■効果音：足音
 924 ■効果音：ベッドに座る音
 925 ▼位置：前【中距離】
 926
 927 寝る支度は済んだか？
 928
 929 ■主人公：済んだよ
 930
 931 ではあとで、ハクのいい所、一から十五くらいまで聴かせてくれ。
 932
 933 ■主人公：え
 934
 935 ……む。え、とはなんだ。さっき言ったでしょうが？
 936 ハクのいい所を百個くらい考えとくと、まったく仕方がないご主人だ。
 937
 938 ちなみに百個も聞いてられない、十五個くらいでお腹いっぱい。
 939
 940 ■主人公：自分勝手だな
 941
 942 ……冗談はいずこにおいて置いて。
 943
 944 ご主人、ちこごう寄れ。
 945
 946 また膝枕をしてやろう。
 947 寝る前に少しだけ、もう少しだけご奉仕をしてやる。
 948
 949 ほら早く。ハクもなんだかんだもう眠い。

950 これが終わったらぐっすり寝る。
951 さ、ご主人かもんかもん。頭をハクの方に向けてな。
952

953 ■効果音：膝枕する音

954 ▼位置：前【近距離】

955 ▼演技指示：以降、囁き（有声音）

956
957 くく、ご主人の顔が近いな。いつも身長差があるからな、
958 ご主人の顔を近くでみることはあまりない。新鮮だ。
959

960 意外と可愛い顔をしているのだな。

961
962 とと、ご主人の顔にうつつを抜かしてる場合じゃない。
963

964 さつき耳かきをしてあげた。その時のご主人の顔がな、
965 凄くところんとしてて気持ちよさそうだっただろ？
966

967 ご主人はきつと耳が弱い——もといお耳を癒されるのが好きなのだと思ってな。
968 耳のマッサージをしてやろうかなと思ったわけだ。
969

970 どうだ、いい提案だと思わないか？
971

972 ■主人公：せっかくだからお願いしようかな
973

974 ふむ、ハクに任せるといい。しっかりやってやるぞ。
975 くく、ハク抜きではいけない生活が待ってるぞ。ふへへ
976

977 ■主人公：狂気を感じる
978

979 こほん……よし、やってく。
980 まずは……お耳のマッサージもといさわりさわりしていくぞ。
981

982 ■効果音：お耳をさわさわ触る音
983

984 さわささわ……さわさわ……マッサージって言ったけど、
985 やりかたわからないから自己流ならぬハク流でやっていくな。

986 (吐息・10秒)

987

988 ご主人のお耳はふにふにしてて、触り心地ばっちり。

989

990 ハクの耳はもふもふで気持ちいいが、ふにふにした感触もいい。

991 みんな違って、みんなよいものだ。

992

993 (吐息・15秒)

994

995 さわさわ……さわ、さわ。さわさわ……さわ、さわ。

996

997 さわさわ……さわさわ。さわ、さわ。さわさわだわ。

998

999 (吐息・20秒)

1000

1001 ふむ、さわりさわりはこのくらいにして、お次はお耳ぐにぐにしてみるぞ。

1002

1003 ゆくぞ。

1004

1005 ■効果音:お耳をぐにぐにする音

1006

1007 ぐにぐに、ぐーにぐに。ぐにぐにぐにぐに。

1008

1009 ぐにぐに、ぐにぐにぐーに。ぐにぐに。

1010

1011 ご主人のお耳をぐーにぐにだ。

1012

1013 (吐息・10秒)

1014

1015 どうだ、さっきよりダイレクトに触ってみてるが、
1016 変な感じじゃないか？

1017

1018 ■主人公:大丈夫 気持ちいいよ

1019

1020 ……ふむ……ならばもっとやってやろう。

1021

ぐにっってやろうぞ。

(吐息・10秒)

31

1022 ぐにぐに……ぐにぐに……ぐーにぐに、ぐーにぐに。
1023 ぐにぐにぐにぐに……ぐにぐにぐーに。

1024
1025 ふへへ……なんだか柔らかくなってきた感じがするな。
1026 ほろほろのほぐしご主人の出来上がりだ。

1027
1028 ……自分でも何を言ってるからわからんな。へへへ。
1029

1030 (吐息・20秒)

1031
1032 ぐにぐに……ぐーにぐに。ぐにぐにぐにぐに。

1033 これはクセになりそうだ、今度から暇を見つけて、ご主人の耳をぐにり行くとするか。
1034

1035 ご主人の耳はハクのモノ。メモしてくように。
1036

1037 (吐息・20秒)

1038
1039 ふむ、名残惜しいが、ぐにるのはここまでにしておこう。
1040

1041 次は……ほりや。
1042

1043 ■効果音:お耳ふさぎ

1044
1045 どうだ？ お耳塞いでみたが、ハクの声聞こえるか？
1046

1047 ■主人公:なんとか

1048
1049 ふむふむ……そりゃよかった。ハクの素晴らしき美声が聴けなくなっでは、
1050 人生の半分は損してると言っても過言ではないからな。
1051

1052 ■主人公:過言でしょ

1053
1054 ……都合の悪い話はお耳ボタンと閉じてスルーするに限るな。
1055

1056 ついでにご主人のお耳も塞いでやる。
1057

1058 んぐーんぐーんぐ。

1059

1060 ■効果音:耳塞ぎ 10秒ほど

1061

1062 ぱ。

1063

1064 ■効果音:手を離す

1065

1066 もういちよ。

1067

1068 んぐーんぐーんぐーんぐーんぐ。

1069

1070 ■効果音:耳塞ぎ 10秒ほど

1071

1072 ぱ。

1073

1074 次は少し長めにやってみよう。

1075

1076 お手てで、お耳をんぐーんぐーんぐーんぐーんぐーんぐ。

1077

1078 ■効果音:耳塞ぎ 30秒ほど

1079

1080 お手てを耳にあててんぐーんぐーんぐ、そして離す。

1081

1082 ■効果音:台詞に合わせて、耳塞ぎ

1083

1084 もう一回。

1085

1086 ハクのぷにぷににお手てを耳にあててんぐーんぐーんぐ、また離す。

1087

1088 これを繰り返していくぞ。

1089

1090 ■効果音:耳塞ぎを繰り返す 60秒ほど

1091

1092 ハクのお手てでぷにぷにで気持ちいいか？

1093

基本体温が高めなハクなので、温かい気持ちになるだろう。

1094 自慢のお手てだ。堪能するといひ。

1095

1096 ギュー~~~~~

1097

1098 ■効果音:耳塞ぎ 10秒ほど

1099

1100 ぱっ。

1101

1102 ギュー~~~~~

1103

1104 ■効果音:耳塞ぎ 20秒ほど

1105

1106 ぱっ。

1107

1108 ……ご主人、またお顔とろんってしてきたな。

1109 ふっふっふっ。またご主人を虜にしてやったな。

1110

1111 ハク、自分の才能が怖いぞ。

1112

1113 ■効果音:耳塞ぎを繰り返す 60秒ほど

1114

1115 お耳塞ぎはこれまでだ。

1116

1117 まだまだご主人を蕩けさせてやるから、期待してよいぞ。

1118

1119 次は……これだ。

1120

1121 ■効果音:耳回りをタッピング 15秒ほど

1122

1123 お耳回りをとことこしていくぞ。

1124

1125 爪でやると痛い痛いだからな、指のお腹でご主人の耳回りをとことこだ。

1126

1127 (吐息・15秒)

1128

1129 ぐわんぐわん……ぐわんぐわんぐわんぐわんぐわんぐ。

1166	■効果音:タオルで耳塞ぎ 20秒ほど
1167	
1168	そしてえ……優しくししし、ししし……ししし。
1169	
1170	■効果音:タオルで耳回りをしししする音
1171	
1172	(吐息・10秒)
1173	
1174	またまたぎゅー……
1175	
1176	■効果音:タオルで耳塞ぎ 15秒ほど
1177	
1178	ししししししし。
1179	
1180	■効果音:タオルで耳回りをしししする音
1181	
1182	(吐息・10秒)
1183	
1184	……ししししししし……ふかふかタオルでお耳のマッサージだ。
1185	しししししししし、しししししししし……。
1186	
1187	(吐息・10秒)
1188	
1189	またまたまたぎゅー……
1190	
1191	■効果音:タオルで耳塞ぎ 15秒ほど
1192	
1193	またまたたししし、しししし、しししし。
1194	
1195	■効果音:タオルで耳回りをしししする音
1196	
1197	へへ……どうだ？ ハクの指とは違った感覚になるだろう？
1198	ご主人に髪の毛を拭いてもらう時にしししされるの、ハク結構好きだ。
1199	
1200	だからきつと、ご主人も好きかなって思ってた。ふふん。
1201	

1202 最後にも一回お耳を塞いでやろう。

1203

1204 ほい、ぎゅ~~~~~

1205

1206 ■効果音:タオルで耳塞ぎ 30秒ほど

1207

1208 ふむ、タオルでのマッサージもこれにておしまいだ。

1209

1210 ……さて、ここからメインディッシュ……じゃなくてメインイベントだ。
1211 もっともっと、気持ちよくしてやるからな覚悟するといいぞ。

1212

1213 少々お待ちを。

1214

1215 ■効果音:がそこそする音

1216

1217 えっと……あれ、ここにしまつて置いたはずだが……。
1218 あ、これだこれだ。

1219

1220 よし、準備オッケー。まずはこれを手に付けて

1221

1222 ■効果音:泡を手に付ける音

1223

1224 それを手でわしゃわしゃして

1225

1226 ■効果音:手で泡をわしゃわしゃする音

1227

1228 ふむ、こんなものか？

1229

1230 ご主人もなんとなく察してると思うが、おりや。

1231

1232 ■効果音:泡を耳に付ける音

1233

1234 耳あわあわマッサージだ。

1235

1236 ■効果音:耳泡マッサージ 開始※15秒くらい

1237

どうだ、気持ちいいか？

1238 ■主人公：意外と

1239
1240 へへーっ。そうだろそうだろ。気持ちいいだろう。
1241 ちよっとぞわぞわするかも知れないが、それも時期に慣れる。
1242

1243 ■効果音：10秒ほど耳泡マッサージ音

1244
1245 わしやわしや。わしやわしや、わしやわしや、わしやわしや。
1246 へへ、やってる方も楽しいぞ。これ。
1247

1248 ■効果音：10秒ほど耳泡マッサージ音

1249
1250 ん、心なしご主人の耳がふやけてきてるか？
1251 触り心地がばわーあっふしてゐるぞ。
1252

1253 大丈夫か？ やり過ぎてご主人の耳溶けてなくならないか？
1254

1255 ■主人公：怖い怖い

1256
1257 冗談だ。ご主人のもっちりお耳はハクが守る。
1258

1259 ■効果音：10秒ほど耳泡マッサージ音

1260
1261 わしやわしや。わしやわしや、わしやわしや、わしやわしや。
1262 わしやわしや。わしやわしや、わしやわしや、わしやわしや。
1263

1264 ■効果音：10秒ほど耳泡マッサージ音

1265
1266 ん、ご主人、目つむつてもいいぞ？ 終わるタイミングで声かけてやる。
1267

1268 今は気持ちいい音と感触だけに身を委ねておけ。
1269

1270 ■主人公：そうする

1271
1272 うむ、聞き分けの言いご主人は好きだぞ。へへ。
1273

1274 もう深夜と呼ばれる時間だから、ここからは静かにやってくか。
1275
1276 ■効果音：60秒ほど耳泡マッサージ音
1277
1278 ……耳があわあまみれのご主人。ちよつと可愛いな。
1279 ゆるゆるキャラクター、略してゆるキャラだ。
1280
1281 ■効果音：30秒ほど耳泡マッサージ音
1282
1283 ん、そろそろ泡もなくなりそうだ。もう少しだけして終わりにするか。
1284
1285 ■効果音：60秒ほど耳泡マッサージ音
1286
1287 これですべておしまいだ。お疲れだったな、ご主人。それとハクも。
1288
1289 ……………。
1290
1291 ご主人、終わったぞ。寝てるか？
1292
1293 ■主人公：起きてるよ
1294
1295 起きてたか。どうだ心地よかったか？
1296
1297 ■主人公：かなり
1298
1299 それは重畳だな。
1300
1301 ん、耳の泡をタオルで取るからまだ動いちゃだめだぞ。
1302
1303 ■効果音：濡れタオルを取り出す音
1304
1305 耳に当てるな。
1306
1307 ■効果音：濡れタオルで耳を拭く音
1308
1309 よし、綺麗さっぱりだ。

1310

それじゃ、もう今日は寝るぞ。

1311

そろそろ日付が変わる時間になる。夜更かしはよくないからな。

1312

1313

■BG:フェードアウト

1314 (■トラック 6)

1315

1316 ▼位置：前【中距離】

1317

1318 ぐっぐっぐ。ご主人おじゃまします。

1319

1320 ■効果音：布団に潜り込む音

1321

▼演技指示：以降、囁き（有声音）

1322

▼位置：前【近距離】

1323

1324 んしょつと。お昼と同じように添い寝だ。

1325

ご主人の体温はハクにとって丁度良いからな、いつもより良く眠れるはずだ。

1326

1327 そして朝、起きたときにご主人が傍にいる、それほど幸せなことはない。

1328

ハクは幸せ者だ。ぐっ。

1329

1330 ご主人はどうだ？ ハクと一緒にいて嫌じゃないか？ 迷惑になってないか？

1331

1332 ■主人公：楽しいよ

1333

1334 そうか、それは嬉しいな。ぐっ。

1335

1336 ご主人が楽しんでもらえるよう、これからもハクはマイペースにご主人のもとにいるぞ。

1337

1338 (吐息・10秒ほど)

1339

1340 なあなあ、ご主人。明日のごはんはなんだ？

1341

ハクはご主人が作るご飯が好きなのでな。

1342

いつも明日のことを考えるのが寝る前の楽しみなのだ。

1343

1344 前に作ったパンに卵を染み込ませたやつがいいぞ。

1345

ふれんちとーすと？ とか言ったやつだ。

1346

1347 あれはうまいからな。ほっぺたがいくつあっても足りないほどの美味だ。

1348

ご主人が作ってくれた料理の中でも五本の指に入るくらい好きだぞ。

1349

1350 ■効果音:主人公の裾を引つ張る音

1351

1352 なあなあ、ご主人。ふれんちとーすとが食べたいぞ。

1353 明日ミルクと一緒に出してくれ？

1354

1355 ■主人公:わかった

1356

1357 ……ホントか？ 約束だぞ。へへ、これは明日の朝が楽しみだな。

1358

1359 ん、ふああ。んにや、もう眠気限界だ。

1360 ハク、お眠りするぞ。ご主人もちゃんと寝るように……。

1361

1362 ん……近くにご主人がいると安心するな。

1363

1364 ■効果音:抱き付く音

1365 ▼位置:前【近距離】マイクの胸あたり。

1366

1367 へへ、今日はご主人に抱き付きながら寝ることにする。

1368

1369 くんくん、くんくん。ご主人の匂いだあ。

1370 すう。うう。はあ。うう。嗅ぎなれたいい匂い。

1371

1372 ハクの居場所って匂いがするな。くんくん、くんくん。へへ。

1373 ご主人もハクを嗅いでみるか？ 乙女のいい匂いがするぞ。たぶん。

1374

1375 ■主人公:遠慮しとく

1376

1377 そうか、ハクはいつでもうえるかむだから。

1378 だが汗かいてる時はダメだ。恥じらいもハクはちゃんと持つてる。

1379

1380 ふわ。うう。ん、寝るか。ご主人も目をつむるんだぞ。

1381 もし寝れなくても、寝れるように努力をするのだ。

1382 大丈夫だ。ハクのことを想っていれば自然と寝られるはずだ。

1383

1384 ハクにはひーりんぐ効果がついてるからな。

1385 それじゃ、ご主人、おやすみだ。

1386 ■主人公：おやすみ

1387

1388 (吐息・20秒)

1389

1390 (寝息・20秒)

1391

1392 ん……むにやむにや。夢の中でもご主人に会いたいなあ。

1393 ……また、明日から、も、一緒に……いよう、な。

1394

1395 (寝息・20秒×3パターンください) ※ループ用

1396

1397 ▼演技指示：以降、寝言

1398

1399 すう、すう、すう。……ご主人……それはハク、の、取っちゃめーつだぞ。すうすう。

1400

1401 すう、すう……全世界、もふもふ化計画、始動……へっへっへ……すうすう。

1402

1403 すうすう、すうすう、うう労働は嫌だ、働きたくない、ぐーたら万歳……すうすう。

1404

1405 すう、すう……ふれんちとくすと食べ放題、ふへへ、ふっへっへ……むにやむにや。

1406

1407 すうすう……すう……ご主人……ハクはいつも傍にいるぞ……すうすう。

1408

1409 すうすう……む、お昼寝の邪魔するものは、ゆるさんぞ……むにやむにや

1410

1411 ……すう、すう……ずっと一緒にいるぞ、ご主人……すう、すう

1412

1413 すう……すう……ご主人、好き、だぞ……すうすう

1414

1415

1416 ■編集さんへ：寝息40秒ごとに寝言をひとつ入れてください。

1417	(■トラック7)
1418	
1419	■ B G:窓の外から鈴虫の鳴き声
1420	▼演技指示:以降、囁き(有声音)
1421	▼位置:前【近距離】
1422	
1423	すう、すう……すうすう……すうすう。
1424	
1425	■効果音:布団でもぞもぞする音
1426	
1427	ん……喉乾いた……。
1428	
1429	■効果音:布団でもぞもぞする音
1430	▼位置:前【中距離】マイクに背を向けて
1431	
1432	よいしょと……。
1433	
1434	■効果音:ベッドから降りる音
1435	■効果音:遠ざかる足音
1436	■効果音:木製のドアを静かに開けて閉める音
1437	■効果音:少し間
1438	■効果音:木製のどが静かに開いて閉まる音
1439	■効果音:近づいてくる足音
1440	▼位置:前【中距離】
1441	
1442	……どっこいしょ……。
1443	
1444	■効果音:ベッドにあがる音
1445	■効果音:布団に潜り込む音
1446	▼位置:前【近距離】
1447	
1448	ふう……深夜に飲むシルクもうまうまだ。
1449	ふわあ……うむ、まだ日が昇るまで時間があるな。
1450	もうちよつとゆつくり寝るとするか……。
1451	
1452	

1453 ご主人も……うむ、気持ちよさそうに寝ているな。よきかなよきかな。
1454
1455 あつ。
1456

■効果音:主人公が寝返りを打つ音

▼位置:後ろ【近距離】

1457
1458
1459
1460 ……むっ……ハクに背を向けるなどいい度胸なご主人だ。
1461
1462 ……うゝむ。ま、いいだろう。
1463 ハクはご主人の背中が好きだからな……。
1464
1465 あらよつと。
1466

■効果音:背中に抱き付く音

1467
1468
1469 ご主人成分補充……。くんくん、くんくん……ふむ良い匂いだ。落ち着くな。
1470

(吐息・10秒)

1471
1472
1473 ふわぁ〜……。……もうちよと、もうちよとだけ、
1474 朝日が昇るまで、ご主人と一緒に寝ることにする。
1475

1476 ……起きたらふれんちとーすとがハクを待っている。へへ。
1477

……おやすみだ、ご主人。

1478
1479
1480 (吐息・20秒)

1481
1482 (寝息・10秒×3パターンください)

1483
1484 ■編集さんへ:寝息素材を使用し、3分くらい流してフェードアウト

1485 (■トラック 8)

1486

1487

1488 ■効果音:布団でもぞもぞする音
▼位置:前【近距離】

1489

1490 ん……むにやむにや。む……眩しい……もう朝か。

1491 ん……つ。ご主人は……、まだ寝てるな。

1492

1493 ようやくちゃんと眠れるようになったのだな。

1494 ふむ、ハクのおかげということだろう。

1495

1496 (吐息・5秒)

1497

1498 寝顔は子供みたいだな。ハクとそうかわらんように思えるな。

1499 まあハクはご主人より年上のお姉さんなのだが……。

1500

1501 そこらへんはご愛敬ということで。

1502

1503 出会ったばかりのころは、ろくに睡眠をとらず、

1504 食事すらままならないほど憔悴しておったからな。

1505

1506 今は多少よくなっただろう。ふむふむ。

1507

1508 ハクの癒しパワーの効果は偉大だ。

1509

1510 (吐息・5秒)

1511

1512 可愛いな。

1513

1514 ■効果音:お腹が鳴る音

1515

1516 ん……お腹空いた。むむ、お腹が減ってはろくにぐーたらしも出来ぬ。

1517 こころは腹ごしらえが必要だ。

1518

1519 ふれんちとーすとがハクを待ってる。

1520

1521 でも、ご主人、気持ちよさそうに寝てるな……。
1522 う~~~~ん、どうしたものか。
1523

1524 寝かしてやりたい気持ちもあるが、空腹を我慢できるほどハクは大人ではない。
1525 ……実年齢については詮索しないでいただきたい。
1526

1527 う~~~~ん。よし決めた。ご主人を起こして、ご飯を作ってもらって、
1528 そのあとまたご主人と昼寝をしよう。
1529

1530 そうすれば万事解決だ。
1531

1532 というわけで。
1533

1534 よっせいっ。
1535

1536 ■効果音:布団の上で立ち上がる音
1537

■効果音:布団を揺らす音

▼位置:前【中距離】

1538
1539
1540 ご主人~~~~おきろ~~~~あさだぞ~~~~。
1541 ふれんちとーすとの時間だぞ~~~~。
1542

■編集さんへ:少し間

1543
1544
1545 むむ、起きない。これは相当深い眠りについてねるな。
1546 しかしこちらも深くお腹を空かせてる。
1547

1548 情けはせん。
1549

1550 ご主人~~~~~~~~つ。朝~~~~~~~~。
1551 ふれんちと~~~~~~~~す~~~~~~~~。
1552

■効果音:布団がもぞもぞ動く音

1553
1554
1555 あゝ起きた。
1556

1557 おはようだ。ご主人。良い目覚めだな。

1558

1559 そんな恨めしそうな顔しない。約束のふれんととーすとを作つて。

1560

1561 ハク、お腹へこへこだ。

1562

1563 ■主人公：わかったよ

1564

1565 うむ、礼を言うぞ。

1566

1567 それじゃご主人。今日も一日、ハクとまったり過ごすぞ。へへ。

1568

1569 (■トラック 9)

1570

1571 ※通常マイクで収録予定※

1572

1573 これはご主人も知らないハクのむかし話。

1574 これからもご主人に話す気はない、ただの日記のようなもの。

1575

1576 ハクがまだケモ耳美少女ではない頃。

1577 つまりまだ人型ではなく、可愛い可愛いもふもふ獣だった頃のお話だ。

1578

1579 とある日、ハクは空腹のあまり道端で倒れてしまっていた。

1580 あまりにもぐーたらし過ぎてご飯を食べるのを忘れてしまったのだ。

1581

1582 いやはやお恥ずかしい。

1583

1584 そこに一人の人間がハクの前で足を止めた。

1585 人間の顔を見ると……心配そうに見つめる瞳が静かに揺れていた。

1586

1587 まだ子供のようだった。どうすればいいのかわからない様子で、わたわたしている。

1588

1589 少しして、意を決したように、両手に持っている荷物を置いて、ハクの身体を持ち上げた。

1590 子供の両手に収まるくらいの、可愛いサイズのハクは抵抗することもなく、

1591 子供——ご主人の手に丸く収まった。

1592

1593 はじめて人の温もりに触れたハクは、あまりの温かさに眠ってしまいそうになった。

1594 人肌がいい気持ちだったのだ。お腹がいくら空いていても、眠気はやってくるものだ。

1595

1596 眠ってしまいそうなハクを見て、ご主人はまた慌ててしまう。

1597 ただぐっすりしただけだったとは口が裂けても言えないな。

1598

1599 ご主人はハクを背中に乗せて、地面に置いた荷物を両手で持ち、自分の家へと足を急いだ。

1600

1601 実は言うとき背中にしがみつくの苦労したのだが、

1602 子供だったご主人はきつと気づいていない。

1603

1604 10分ほど歩いた先にご主人の家が見えた。

1605 駆け足で玄関を開けて……家の中にあるソファにそっとハクを置いてくれた。

1606

1607 そしてミルクと食料を持ってきてハクにご馳走してくれる。

1608

1609 空腹には逆らえずバグバグといただいものだ、あの時の味は今でも覚えてる。

1610 そう、朝食で余ったふれんちとーすとをハクに食べさせてくれたのだ。

1611

1612 動物に食べさせてよいものかちょっと微妙だが、ハクは特別な獣さんなので、
1613 美味しくいただいた。

1614

1615 一通り食べ終えたら、また眠気が襲ってきた。

1616 ご主人はあまりにも元気に食べる姿を見て安心したのか、

1617 慌てる様子もなく、楽し気にハクを見ていた。

1618

1619 ちょっと恥ずかしいな。

1620

1621 でもご主人に見つめられて嫌な気分にはならない。

1622 瞳の温かさがちょうどよく……ハクはご主人に見つめられたまま眠りについた。

1623

1624 ■編集さんへ…少し間

1625

1626 しばらくぐっすり寝ていたハクは目を覚ます。

1627 あたりは真っ暗で深夜になっていた。

1628

1629 いくらなんでも寝すぎだ、と自分で自分にツツコミを入れつつ、そばを見ると。

1630 そこにはご主人の姿がまだあった。ずっと傍にいてくれた。

1631

1632 ……優しい人間だ。そう心に思ったものだ。

1633

1634 ただあまり人間が住まう所にいるとよくないので、ご主人の頬をちろちろ舐めて、
1635 おこしてやった。挨拶もなしで別れるのはよくないからな。

1636

1637 ぼんやりした目を開かせる、大丈夫？ と声をかけられるご主人に返事をして、
1638 ハクは玄関に向かう。その後ろでご主人が心配そうに付いてきてくれた。

1639

1640 そして外へ出る前に、一言「にゃあ」と言っつてハクは外の世界に帰ったのだ。

1641 ご主人もハクが無事なのを確認して、安心した顔をしていたのが印象的だった。

1642

1643 そこからまた時が経ち、ハクは時折ご主人の様子を伺うことにした。

1644 意外と俊敏に動く事が出来るハクは、ご主人の家の近くにある大樹を宿代わりにして、
1645 ご主人を監視——もとい見守っていたのだ。

1646

1647 子供のご主人が少し大きくなって……青年になって……さらに大きくなった。

1648 人間の成長スピードに驚きつつも、ハクは気ままにご主人を観察していた。

1649

1650 とある日を境に、ご主人が住む大きな家でご主人は独りで暮らすことになる。

1651 何があったのかはわからない、わがらうともしなかった。

1652

1653 だが、ご主人が時折寂しい顔をしていることだけはハクでもわかった。

1654 そこからのご主人は人が変わったように、仕事に精を出した。

1655 寝食を二の次にして……自分の身体を痛めつけていた。

1656

1657 そこにどんな理由があるか知らないが、それだけは良くないと思った。

1658 なのでハクは人型になり、ご主人に近づく事にした。

1659

1660 ハクは特別な獣族（けものぞく）なので、人型に変身することだってできる。どやあ。

1661 尻尾とお耳が付いたままのはちゃーむぼいんと的なやつだ。

1662 決してまだ未熟だからとかじゃないからな。うん。

1663

1664 こほん、それでどうやってご主人と会おうか悩んで悩んだものだ。

1665 悩み続けて出た結論は、最初にご主人に助けられた状況と同じにしようとした。

1666

1667 きつとご主人はまた拾ってくれると思ったからだ。

1668 まあ、最初スルーされそうになったが、結果だけ見れば、想像通りになったからよしとする。

1669

1670 これがハクのお話。ハクとご主人が出会うまでのお話だ。

1671

1672 ハクを助けてくれたご主人を、今度はハクが助ける。

1673 ご主人がいなくなるまでずっと。

1674 ハクの寿命は長いから……ご主人が嫌っていてもずっと傍にいるぞ。

1675

1676 へへへ。以上、ご主人にも内緒なハクの独り語りだ。めでたしめでたし。

1677 さ、今日もふれんちとーすとを所望するぞ、ご主人。
1678
1679

End